Ｒ６年度　最上地区中学校新人体育大会　ソフトボール競技

【　熱中症対策　】

最上地区中体連ソフトボール専門部

１　全体として実施する事

（１）近隣の病院への緊急時の対応について依頼を行う。

（２）会場に養護教諭を配置し、体調不良者への応急処置ができる体制を整える。

（３）出場校に「熱中症事故防止」についての文書を配布し生徒、保護者への事前指導を行う。

（４）選手や役員の給水や健康観察をこまめに行う。

２　ソフトボール競技における対応

（１）会場にエアコンの利く部屋を確保し、休憩場所や救護室に充てる。

（２）各中学校へ簡易テントの用意、帽子の着用、塩や梅干しなどの補食、首や脇の下を冷たいタオル、

大量の氷、経口補水液等の準備をお願いする。

（３）通常よりも多くの給水タイムや休憩時間を設定し、競技役員や観戦者・補助役員にもこまめな水分

補給を呼びかける。

（４）競技中は、選手、審判に限りマスクをはずしてもよい。役員、監督、コーチについては原則マスク着用とするが、アップやフィールディングなど、必要に応じてはずしても良い。

（５）ＷＢＧＴの測定を状況に応じて３０分おきに計測する。数値が「厳重警戒」までは、こまめな水分補給と攻守交代時の５～10分程度の給水時間を設け対応する。

（６）守備時間が１５分を超えた時、審判団の判断で休憩（給水）時間をとる。休憩（給水）時間は、５～10分とする。（その時の気温や選手の状態を診て）

（７）ＷＢＧＴが３１℃以上を示した場合は、打者がアウトになり、ゲームが一時切れた時に中断する。

専門部長、委員長、養護教諭、各学校監督が打合せを持ち、試合再開の時間を設定する。

（８）試合が消化しきれない場合は、予備日への順延も柔軟に検討していく。

（資料）　熱中症指数調査用紙（ＷＢＧＴ記録）

Ｒ６年９月　　日（　）　　　　　　　会場：日新中学校　　　　　測定場所：

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時刻 | ＷＢＧＴ | 温度 | 湿度 | 判定 |
| 時　　分 | ℃ | ℃ | ％ | 注意　・　警戒　・　厳重警戒　・　危険 |
| 時　　分 | ℃ | ℃ | ％ | 注意　・　警戒　・　厳重警戒　・　危険 |
| 時　　分 | ℃ | ℃ | ％ | 注意　・　警戒　・　厳重警戒　・　危険 |
| 時　　分 | ℃ | ℃ | ％ | 注意　・　警戒　・　厳重警戒　・　危険 |
| 時　　分 | ℃ | ℃ | ％ | 注意　・　警戒　・　厳重警戒　・　危険 |
| 運動に関する指針 |
| 気温 | ＷＢＧＴ | 熱中症予防運動指針 |
| 35℃以上 | 31℃以上 | 運動は中止 | 特別の場合以外は運動を中止する。特に子供の場合は中止すべき。 |
| 31~35℃ | 28~31℃ | 厳重警戒（激しい運動は中止） | 熱中症の危険性が高い、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合は頻繁に休息、水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さに慣れていない人は運動中止。 |
| 28~31℃ | 25~28℃ | 警戒（積極的に休息） | 熱中症の危険が増すので、積極的に休息、適宜、水分・塩分を補給する。 |
| 24~28℃ | 21~25℃ | 注意（積極的に水分補給） | 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意すると共に運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。 |
| 24℃未満 | 21℃未満 | ほぼ安全（適宜水分補給） | 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 |